

## レーザーコンパス

## レーザー・ガン治療装置の思いで

丸山 徹\*

Toru MARUYAMA\*

私は丸文(株)時代、1983年9月20日、米国ネブラスカ州のロバート・ケーリー知事(当時)により、同州の「友好市民」に設定され、州庁内で記念式典に参加した思いがあります。その当時、米国で開発されたレーザーによるガン治療技術を導入し、民間レベルで日米合同プロジェクトを組み、新しいガン治療装置を日本で初めて開発したことを評価されたものです。

この装置は、 $Ar^+$ レーザー光をガンの患部に直接照射する治療方法を実施するもので、レーザー光はファイバーで導入します。しかし、その前にヘマトプリフィリンという試薬を患者に注射しなければなりません。その注射後、患者のガン疾患部が内視鏡でくっきりと確認できると同時に、不思議な事に $Ar^+$ レーザーの発振波長と相性が良いため、これによって患部のみをレーザー光で蒸散、切除できるというものでした。この画期的な試薬、ヘマトプリフィリンは、米国ニューヨーク州バッファロー市にあるメイヨー・クリニック・ホスピタルのダハティー博士(当時)が開発し特許を取得したものでした。そして、レーザー治療装置は、ネブラスカ州に本拠を置くフォトフェリン・メディカル社が製造し、ヘマトプリフィリンを使用する権利も同社が持っていました。しかし、この装

置と試薬を日本に輸入し、治療に使用するためには、厚生省の許可が必要であり、その認可取得が非常に難しかったのです。そのため、米国のこの技術を導入し、日本のメーカーの製造開発による国産品としての治験申請を厚生省に行わなければなりません。そのような状況の時、レーザー医療分野に関心を持っておられた富士写真光機(株)の伊藤弘社長(当時)と御相談の結果、米国のフォトフェリン・メディカル社ならびにスペクトラ・フィジックス社の技術協力を得て、富士写真光機(株)でガン治療医用装置の開発に着手する話がまとまりました。ヘマトプリフィンリンに関しては、東京医科大学外科の早田博義教授(当時)に治療を依頼し、厚生省に別途輸入許可申請を致しました。私は、フォトフェリン・メディカル社ならびにスペクトラ・フィジックス社の両者の日本における総販売元として国内マーケットに関与していました関係上、日米双方の技術者や学者の方々との人間関係を担当し、装置開発の立上げにお手伝いさせていただいたわけです。

手前味噌になりますが、このことが、日本におけるレーザー・ガン治療医用装置製品化の第一歩を踏み出すきっかけを作ったと密かに自負いたしております。

\*(株)インデコ (〒112 東京都文京区春日1-11-14)

\*INDECO, INC. (1-11-14 Kasuga, Bunkyo-ku, Tokyo 112)